

庁 報

不 盡



祝賀御列の儀

第139号

令和2年春季号

発行 静岡県神社庁

URL:<http://www.shizuoka-jinjacho.or.jp/>



御挨拶

静岡県神社庁

副庁長 河村基夫

げます。

神社庁の重要な事業であり

ます神宮大麻頒布活動につき

ましては、県内神社関係者の

皆様方の御尽力により、従前

通りの頒布数を上げることが

出来ましたことに感謝申し上げ

げます。

また、今年度の県民総参宮

第六十五回新穀感謝祭伊勢神

宮参拝団には、昨年度とほぼ

同数の皆様方に御参加頂きま

したことに重ねて御礼申し上げ

ます。

令和の新しい御代となりま

したが、令和元年度に生まれ

た新生児は九十万人を下回り

少子高齢化が加速し、過疎化

が益々進み神社の維持運営が

たいへん厳しくなってきました

ります。今後県内の過疎地域

の神社の合併が進むことが想

定されますが、明治の時代の

我々の先人達が神社を護持し

ていった歴史を検証しつつ、

皆様方と英知を絞ってこの問

題に取り組んでいかなければ

ならないと思います。

神社界が抱える諸問題は多

岐に亘りますが、御指導御教

導を賜り乍ら神社庁運営に努

めてまいる所存でありますの

で、何卒皆様方の御協力の程

宜しくお願い申し上げます。

令和二年の新春を迎え、謹

みて皇室の弥栄を寿ぎ奉り、

国家の繁栄と県内各神社の隆

昌をお祈り申し上げます。天

皇陛下には昨年五月一日に第

百二十六代天皇として践祚あ

そばされ、十月二十二日「即

位礼正殿の儀」、十一月十四

日・十五日に「大嘗祭」が斎

行され、御大典の重儀が厳肅

に執り行われましたことは誠

に慶賀の至りに存じ上げます。

県内に於きましても御大典

の奉祝の赤誠を捧げる式典が

各地で執り行われ、県民挙っ

てお祝いムード一色となり、

令和二年の正月を迎えること

が出来ました。本県神社庁と

致ししても、今秋の九月三

日に静岡市民文化会館に於き

まして「天皇陛下御即位奉祝

式典」を名誉会長に川勝平太

県知事、会長に後藤康雄総代

会長に御就任頂き開催致す予

定でありますので、多くの皆

様方の御参加をお願い申し上



御挨拶

静岡県神社総代会

副会長 高木 亮

昨年、静岡県神社総代会副会長を仰せつかりました富士支部総代会の高木亮でございます。

何分にも浅学の身であり斯界皆様のご指導無くして責務執行能わず、よろしくご高配のほどお願い申し上げます。

令和の御代が私共にとりまして希望に満ち溢れた素晴らしい御代でありますよう、心から念ずるところであります。

しかしながら昨今の異常気象、台風、集中豪雨、河川の氾濫、土砂崩れ、地震、火山噴火など、自然災害の多さに驚くこと多々であります。自然界の異常は、人間が科学文化文明の発達により、自然界への畏怖を忘れ、神への感謝の祈りを忘れたことへの「天の怒り、地の叫び」ではないのか。私一人の思いでしょうか。

り。この三徳を翁受けずして天下の治まらむこと誠に難しかるべし。

（北畠親房『神皇正統記』）

「鏡」は正の象徴であり、「玉」は慈悲の象徴、「剣」は正と慈悲仁愛に基づく勇の象徴ということになります。

全日本剣道連盟制定の日本剣道形制定委員の中山博道先生は、「武道の主眼とするところは、義、仁、勇の三つの意義にほかならぬ」と断言されておられます。この三つこそが日本の建国の精神を象徴する「八咫鏡（正義）」、「八咫瓊勾玉（慈悲仁愛）」、「天叢雲剣（大勇）」と言うことであり、これを剣道形の「一本目」「正」、「二本目」「仁」、「三本目」「勇」に配して表現したものと考えられます。剣道は「剣を離れて剣道無し、道を離れて剣道無し」と言われることを再考する必要があると。

剣道の修練にあたり、剣道の剣を斯様のものと理解すべきであろうと考える昨今であります。

私は地元地域で剣道「時習

会」という仲間があり、平成三十年三月南伊勢へ遠征しまして、陰流開祖「愛洲日向守移香斎」所縁の「愛洲の館」道場で地元剣士と合同稽古。伊雑宮を紹介いただき参加者で参拝、後、神宮内宮を参拝。同年十一月東海四県交流合同稽古会が三重県主管伊勢市内で稽古、神宮会館へ宿泊。早朝、神宮宮掌吉田吉里氏の案内で内宮見学。剣道五段とのこと、剣道談議に花が咲き、直後の新穀感謝祭参拝においても偶然案内担当でお世話になりました。縁とは思議なもの、剣道と神宮との縁もかりであります。

私も剣道という日本の伝統文化を次世代に継承する中で、「剣」が三種の神器の一つである「天叢雲剣」と強い関係を持つという意味合いを併合させ、神への感謝の祈り、神社総代会という立場での責務を考えたく存じます。

趣旨一貫せず至らぬ挨拶で申し訳なく存じますが、本年も昨年同様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



ご挨拶

伊勢神宮崇敬会静岡県本部

副本部長 松本

孔

皆様方には、平素より伊勢神宮崇敬会のことにつきまして格別のご尽力を賜っており、また歴史の天皇のなさりようを心にとどめ、自己の研鑽に励むとともに常に国民を思い、国民に寄り添いながら憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たす事を誓い、国民の幸せと国の一層の」と仰せられました。この陛下の溢れんばかりの御心に感動すると同時に、日本の国民として生まれた事の幸せを強く感じました。

さて、御皇室に於かれましては天皇陛下が昨年四月三十日に御譲位あそばされ、翌五月一日に皇太子殿下が第百二十六代の天皇陛下に御即位されました。元号も「平成」から「令和」に改元され、御代替わりに関する一連の諸儀式が悉く執り行われましたこと、国民の一人として心からお慶び申し上げます。

なかでも、十月二十二日には即位の礼の中心的儀式であり、国内外の代表の方々約二千人を招かれ、天皇陛下が即位を国内外に宣明なされる正殿の儀が執り行われ、陛下はお言葉で「ここに皇位を継承

するに当たり、上皇陛下のこれまでの歩みに深く思いを致し、また歴代の天皇のなさりようを心にとどめ、自己の研鑽に励むとともに常に国民を思い、国民に寄り添いながら憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たす事を誓い、国民の幸せと国の一層の」と仰せられました。この陛下の溢れんばかりの御心に感動すると同時に、日本の国民として生まれた事の幸せを強く感じました。

陛下御一代一度の大切なまつりごと「大嘗祭」が、つづがなく執り行われました。私は平成の「大嘗祭」の時には、奇しくも「庭燎用の割木の献上」をする人達に、加えて頂けました。

原木の伐採から搬出作業、

割木作業、仕上げと一所懸命取り組み、順調に予定の数量を整え献上の日を待ちました。けれど、当時は全国各地の神社などが、過激派の放火による火災発生のため騒然となっていました。二百七十束の割木に万が一の事があつては大変と、夜間には倉庫の所有者の方や近隣の担当者が見廻りして防犯に努めて下さいました。いよいよ十月四日早朝、献上の為出発し乾門に予定通り到着。世相を反映してか、代表者が守衛さんに報告に行くと、棒の先端にミラーの付いた物で車体の下まで確認。許可が下りると一人一人の住所氏名をチェックし、その後、金色の番号の付いたバッチを預るといふ流れで、物々しさを感じたひとコマでした。掌典の方に案内され、神嘉殿の前庭にトラックで積んできた割木の一部を下ろし並べ、我々も共に修祓を受ける事ができました。聞けば、割木の様な大きな物から少量の物まで丁寧に祓われている

との事で頭が下がる思いでした。また、宮中三殿の建物のある塀の中の一隅、白い石の敷き詰められた所で、色々な説明もいただきました。最後に詰所の一室に案内されると、年代を思わせる様な黒光りの机に運ばれてきたお茶。飲み終わる頃には、すっかり疲れも取れていたのを思い出します。本当に素晴らしい経験をさせて頂き感謝しております。

さて、本宗と仰ぐ伊勢の神宮の御事につきましては、前回の遷宮以来若い世代の方々を中心とした参拝者が定着し、八百五十万人余の方々の参拝があつたと聞いております。また、恒例の事業であります県民総参宮第六十五回新穀感謝祭伊勢神宮参拝団は、四千人余になったと聞いております。これも皆様の日々の啓発活動のご尽力によるものと、心より感謝申し上げます。むすびに皆様方の御健勝とそれぞれの奉務神社の御隆昌をお祈り申し上げます。



ご挨拶

神道政治連盟静岡岡県本部

副本部長 小西英麿

昨今は異常気象のせい、大型の台風が相次いで上陸し、多大な被害が発生しました。犠牲となられた多くの方々や、被災された皆様には心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

関係各位におかれましては、神道政治連盟静岡岡県本部の諸活動に対しまして、格別なる御理解と御協力を賜りますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、天皇陛下におかれましては昨年五月一日に践祚・御即位あそばされ、元号も新しく「令和」と定められました。十月二十二日には即位礼正殿の儀、十一月十四日・十五日には大嘗祭が執り行なわれました。謹んで御即位を寿ぎ奉り、皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

平成の御大典の時には、私はすでに奉職しておりましたが、当時は「昭和」と云う激

動の時代の後だったせい、さまざまな事があったのを思い出します。大嘗祭につきましては、折口信夫の論文「大嘗祭の本義」に登場する「真麻追衾」論が、さかんに登場しました。各メディアがこぞってこの論文について論じていました。私も、読みあさった記憶があります。又、過激派も各地で神社等に対するテロ活動を頻繁に行っていました。私が奉職している神社でも、宿直員を増員して徹夜で警備に当たった覚えがあります。しかし、今回の御代替りは、この様なことも無く無事に終へる事が出来た事を大変喜ばしく思います。国民の皆様一人一人が、皇室を敬う気持ちの現れだと、感謝しています。

- 一、美しい日本の憲法をつくる静岡県民の会に協力
- 二、自主憲法制定運動、国家主権と領土を巡る諸問題への対応、靖国神社公式参拝等各運動への協力
- 三、国民精神昂揚運動合同研修会の共催、時局研修会の開催
- 四、英霊顕彰活動の推進
- 五、教科書問題をはじめ教育正常化運動の推進
- 六、夫婦別姓制導入反対の世論喚起・家族制度改変問題・少子化対策問題への対応
- 七、男女共同参画問題への対応
- 八、人権擁護法案、永住外国人地方参政権問題への対応
- 九、政教関係訴訟への対応
- 十、農林漁業と食糧政策等への対応
- 十一、その他時局問題に積極的に取り組む

を送る事が大切ではないのでしょうか。

また、現在直面している大きな課題は、憲法改正です。現在の憲法は、GHQ民政局が十日余りで起草したものです。国家が自らの意志を持ち、自らの自由と民主主義の制度によって動くことや憲法改正を行うことも、国際的に認められていません。自らの意志で主体的に動いて行く事は、むしろ国際的に評価されるはずで、GHQは、世界一改正が難しい憲法と呼ばれるまでの厳しい憲法改正条文を設定したと云われています。それゆえ、戦後の日本人は憲法改正に関しては関心を持たず、無理だと思い、無視を決め込む人も多かったのではないのでしょうか。いまや日本は、外国の言うとおりに動くべきだという思想が国内に蔓延しているようにも思えます。安倍内閣のうちに、是非とも憲法改正を行うべきだと考えます。

今後共、神道連盟静岡岡県本部の活動に御理解御協力を賜ります様、よろしく御願い申し上げます。

静岡県下の

天皇陛下御即位奉祝行事報告

天皇陛下御即位奉祝行事報告

富士山本宮浅間大社 宮司 甲 田 吉 孝

即位礼正殿の儀が行われた十月二十二日、富士山本宮浅間大社氏子有志で結成された「富士宮提灯行列実行委員会」の主催により、富士宮市内において「奉祝 天皇陛下御即位提灯行列」を行いました。委員会では昨年三月に発足し、市内を中心に約千人の参加者を募集しました。実施までには、提灯等の調達、コースの決定など大変な部分はありました。また、なんと準備を終え当日を迎える事が出来た。

今回最も大変だったのはコースの選定でした。市内目抜き通りを千人規模の行列が混雑する時間帯に通過するため、警察との折衝は数度に及び、看板の設置や予告チラシの配布、警備の手配など様々な対策を

講じることが了承を得ることができました。

当日、午前中は雷鳴が轟くほどの荒天で開催が危ぶまれましたが、即位礼の頃劇的に回復し、神々の御心を感じ、中々始める事が出来ました。午後四時、浅間大社馬場に集合し、午後五時より開会式を行いました。掲げられた多くの提灯でライトアップされた



楼門前で奉奏される舞楽「蘭陵王」・富士宮囃子が始まり、

浅間大社宮司、河原崎澄雄浅間大社責任役員、遠藤信幸実行委員長、須藤秀忠富士宮市長の挨拶で式を納めた後、午後六時に遠藤委員長長の発声により行列が発致しました。

募集定員は千人の予定でしたが希望者が多く追加募集した結果、参加者は千二百余名となりました。奉祝の横断幕を先頭にした行列は長く連なっており、瞬間に光の道が出来ました。参加者は皆歓喜に満ちた表情を見せていました。市内各所では行列の通過に合わせて富士宮囃子が奏でられ一層の盛り上がりを見ました。

市内目抜き通りを中心に約

天皇陛下御即位奉祝行事報告

三嶋大社 宮司 矢田部 盛 男

昨年五月一日に天皇陛下が皇位をおつぎになり『平成』より『令和』へと元号が改まり、新しい御代を迎えました。当三島地域においては天皇陛下



二・五キロを一時間半ほど行進した後、楼門内に集結、塩澤宏章副実行委員長長の発声のもと「聖寿万歳」を行いました。万歳三唱に合わせて打ち上げられた花火がすっかり晴れた空を彩り、感動の内に行事を終えました。

下の御即位を奉祝し、多くの方々とともに天皇陛下との深い絆を実感し合い、明るく力強い令和の御代の幕開けとすべく、「即位礼正殿の儀」に

合わせ令和元年十月二十七日に天皇陛下御即位奉祝式典並びに奉祝パレードが開催されました。

地域の人々が気軽にこぞって参加できる盛大な奉祝行事となるよう、商工会議所・農業協同組合・観光協会を始め当地域に縁のある議員の方々、市内神社総代、ライオンズクラブやロータリークラブなどの各市民団体に広くお声がけし、約一五〇名からなる天皇陛下御即位奉祝委員会を発足、名誉会長に三島市長豊岡武士様、会長に三島商工会議所会頭稲田精治様に御就任頂きました。更に、奉祝委員会の中に実行委員会を設置し、式典・パレードの日程や役務分担、警備、予算、協賛募金、広報、参加者動員等実務的な事項について協議を重ね、私ども神職からの目線だけでなく、広く一般的意見を取り入れながら進めてまいりました。

奉祝行事当日は天候に恵まれ、午後四時の開式を前に式典会場である三嶋大社宝物館



前広場は参加者で埋まり、広場外にまで人が溢れ返る中、御即位奉祝式典が始まりました。式典は集った約三〇〇〇名での国歌斉唱を皮切りに、当会名誉会長の三島市長、会長の商工会議所会頭をはじめ各位より挨拶を賜り、ボーイスカウト三島第五団ベンチャースカウト隊員代表より、奉祝パレードの開会と新しい時代の発展の為に努力していくことを力強く宣言頂きました。結びには、当会副会長の三島函南農業協同組合長の先導にて聖寿万歳を高らかに奉唱しパレードに向け更に盛り上がり、盛会の内に式典は閉

式となりました。

日の入りも近づく午後四時半よりの御即位奉祝パレードでは、ルート各所で奏でられる当地の伝統芸能「しゃぎり」と呼ばれるお囃子が鳴り響く中を、三嶋大社から三島駅に至る約2キロに亘りパレード致しました。参加者は灯り揺らめく提灯を片手に、もう片手には国旗をはためかせ、「天皇陛下万歳」「奉祝令和」と口々に、行交う人々の声援も頂きながら歩を進め、パレー

ド沿道は賑々しく、街が一体となり天皇陛下御即位奉祝の空気を醸し出すパレードとなりました。

この広く門戸の開けた奉祝式典・パレードにおいて、奉祝行事を心待ちにされていた地域の方や偶々参拝に訪れ参加された若い方などを目にし、天皇陛下御即位に対する慶祝の念を強く感じると共に、大変喜ばしく、令和の御代の明るい船出が垣間見える一時でありました。

天皇陛下御即位奉祝行事報告

静岡浅間神社

権宮司

中澤

聡

静岡市に於いては、十月二十六日に天皇陛下御即位静岡市奉祝式典並びに奉祝パレードが執り行なわれました。

静岡市自治会連合会、静岡商工会議所、神社庁並びに総代会の静岡市内各分会が中心となり、静岡市及び静岡市議会にも参加頂き、「静岡市建国記念の日奉祝運営委員会」の構成団体等を基に準備委員

会を組織し、「天皇陛下御即位静岡市奉祝委員会」を結成。田辺信宏市長が名誉会長に、瀧義弘静岡市自治会連合会会長が会長に就任、神社界では、櫻井豊彦、落合偉洲、芦原久雄各市内別表神社宮司が顧問に、芦原久雄神社庁静岡支部長、久保田新平総代会静岡支部長が副会長に就任しました。

当日は心配していた天候にも恵まれ、駿府城公園富士見芝生広場に三千人以上の参加者が集い、まず奉祝式典を執り行ないました。国歌斉唱、会長式辞に続き、田辺市長、亀澤市議会副議長の祝辞を戴き、アトラクションとして静岡商業高等学校音楽部、同チアリーディング部の演奏、演技が行なわれ、静岡青年会議所飯塚潤理事長の先導による聖寿万歳を行ないました。あえて青年会議所理事長が万歳の先導をする等、若い世代の参加が意識されました。



ブ、ボーイスカウトのトランペット鼓隊、高校生のマーチングバンド、そして伝統的な木遣お囃子の団体が先導する形を取り、式典会場から出発、繁華街を行進し、午後七時過ぎ、予定より少し早く解散しました。

式典、パレードを通じて幅広い世代の方々に参加共感して頂く事をコンセプトとして企画された今回の行事でしたが、提灯行列に参加して頂いた各世代の方々に加え、音楽演奏等に参加して頂いた小学生から高校生の若い世代の清々しいパフォーマン스에、土曜日の夕方賑わっていた街

の全世代の人々からの共感を頂けたものと感じる事ができました。

『御大典奉祝行事』を終えて

大きな事故も問題もなく開催できました事に感謝申し上げます。報告とさせていただきます。

小笠支部長 若 森 幸 雄

令和元年十一月三日(日)掛川市に於いて、『令和御大典奉祝掛川市大会』が開催されました。大会に先立つ二月二十七日、掛川商工会議所や区長会により準備検討会が開催されましたが、その時点では神社界の参画はありませんでした。四月十五日に至り、先の平成の奉祝行事にも関わられた龍尾司郎龍尾神社宮司との話し合いにより、神社界も実行委員会に加わることとなり、第一回の実行委員会が、令和元年六月十四日に掛川商工会議所に於いて開催されました。実行委員長に鈴木俊光会頭(神社総代でもある)他十名の実行委員、事務局四名と顧問に掛川市長、掛川市選出二人の県会議員、参与に掛川市議会議員で構成され、神

社界から豊田昌勝総代会掛川連合会長、神社庁小笠支部長である若森、事務局として龍尾重幸龍尾神社禰宜が加わり、十月二十五日まで四回の実行委員会が開催され、種々検討されました。平成の奉祝式典、提灯行列を参考にして掛川市生涯学習センターで式典を行い、提灯行列は同地を出発して掛川城跡を経由して掛川駅に向い、駅前で解散の計画でしたが、旧国道一号線を大勢が通過する道路使用許可がとれず、変更を余儀なくされました。掛川城跡三の丸広場で式典を行い、提灯行列は同地を出発、掛川駅に向けて南下、各地を経由して元の三の丸広場に戻るコースとなりました。距離は約一キロと短くなりましたが、掛川市

の中心街を提灯行列することとなりました。

十一月三日当日は商工会議所、区長会の呼び掛けもありましたが、総代会掛川連合会を中心に神社関係にも呼び掛け、大勢の神職・総代も駆けつけ、式典会場は大勢の参加者で埋まりました。午後五時半、夕暮の明るさが残る中、開会の辞、国歌斉唱、皇居遥拝、委員長式辞、市長祝辞、万歳三唱と進み、閉会の辞で式典は終了しました。

午後六時半提灯行列が始まり、令和御大典奉祝掛川市大会の文字が灯に浮かぶ提灯と、日の丸の小旗を手にした



老若男女が「天皇陛下万歳」を声高らかに唱和して、普通に歩けば十五分ほどの約一キロを、約八百名ほどの参加者がいくつかの集団で歩き、最後の集団が到着したのは午後七時を回っていました。途中掛川駅へ南進するメインの通りには、屋台の引回しで参加する十六町会の奉祝屋台が整列して、行列の運行に華を添えました。

午後七時半より大日本報徳社に於いて赤尾雅楽会（平田神社序雅楽講師他）による越天楽・陪臚・蘭陵王の記念公演で、無事「令和御大典奉祝掛川市大会」を終了しました。

天皇陛下御即位奉祝行事報告

大井神社 宮司 片川 徹

令和元年十一月二十七日午後三時より、島田市商工会議所会頭、大久保節夫氏を会長と仰ぐ島田市御大典奉祝行事が約八百人参加のもと大井神社宮美殿前で開催されました。

当日は先ず開会の辞（司会）次に主催者挨拶（島田商工会



議所 会頭 大久保節夫氏）、次に来賓挨拶（島田市市長 染谷絹代氏、市議会議長 村田千鶴子氏）続いて万歳三唱（大井神社総代 清水克俊氏）を行い式典を終了。続いてパレードが実施されました。

パレードは宮美殿から東の帯通り迄の約八百メートル。商工会議所所属の団体が先頭。大井神社の団体はその後に続きました。各団体の先頭は横断幕と提灯を持ち、又その他の人々は手旗を両手に持ち、行進いたしました。

実のところ本年は当社大祭の年に当たり余裕がなかったこともあり、前回平成二年の御大典奉祝会に比較して各町内会への呼びかけが徹底できなかった為、参加人数が半減してしまいました。

しかし、参加者の意識は高く、皆生き生きとして国旗を持ち、本通りを行進してくれた様に思います。

天皇陛下御即位奉祝行事報告

浜松支部長 桑 島 佳 令

令和元年十二月七日(土)浜松市福祉センターにおいて浜松市民約六百名が参集して天皇陛下御即位浜松奉祝大会が開催された。主催の天皇陛下浜松奉祝委員会は浜松商工会議所を中心とした浜松の経済界有志によって組織され名誉会長に浜松市民代表 鈴木康友市長、名誉顧問に浜松商工会議所 大須賀正孝会頭、会長に日本会議静岡浜松支部 御室健一郎支部長を推戴し、神社界からは浜松、磐田北、浜

名、引佐の各支部、春野町神社振興会が協賛参画し進められてきた。

第一部は、浜松市出身のソプラノ歌手 田上知穂氏、ピアノ奏者 小池絃子氏による奉祝コンサートが開かれた。

第二部奉祝式典では浜松奉祝委員会 大塚哲雄副会長の開式の辞に始まり、国歌斉唱、御室健一郎会長による主催者式辞、鈴木康友名誉会長による市民代表祝辞、柳川樹一郎浜松市議会議長、塩谷立



衆議院議員、城内実衆議院議員、源馬謙太郎衆議院議員の祝辞、中沢公彦静岡県議会副議長、中沢公彦静岡県議会副議長、大塚副会長の閉式の辞と厳粛裡に挙行された。

第三部は作家、明治天皇玄孫の竹田恒泰氏による「平成から令和へ 今一度、天皇について考えよう」と題した記念講演が開催され、浜松奉祝大会は盛会のうちに幕を閉じた。

式 辞

天皇陛下御即位
浜松奉祝委員会

会長 御室健一郎

天皇陛下におかれましては
本年五月一日に践祚せられ第

一二六代の天皇の御位にお即きになられました。併せ元号は平成から令和に改元され、十月二十二日には即位礼正殿の儀、十一月十四日十五日の二日間に亘っては大嘗祭、極めて重要な皇位継承儀礼が恙無く斎行されたところでございます。上皇御一家は、昭和四十二年から五十三年にかけて御家族お揃いで計九回、奥浜名湖にて夏のひと時をお過ごしになられるなど幾度となく、この遠州地方にもお越しを頂いてまいりました。

本日は、私たち市民の立場から改めて天皇陛下の大御心に親しみを感じますと共に心から感謝を申し上げ、御即位を奉祝するべく天皇陛下御即位浜松奉祝大会を開催するものでございます。今上陛下には常に世界の平和と国民の平安の祈りを重ねて頂いております。是非とも、これを機に皇室を中心に仰ぐ美しい伝統国家 日本の繁栄を願い、天皇皇后両陛下のより一層の御健勝と皇室の弥栄を祈念申し上げます。

第九十八回駿豆神職研究会 (当番 田方支部)

令和元年五月二十九日午前
十時より三島市内『みしまプ
ラザホテル』において、「奉
祝天皇陛下御即位 第九十八
回駿豆神職研修会」を田方支
部当番にて開催致しました。
当年五月一日には約二百年ぶ
りとなる御譲位により天皇陛
下が御即位され、奉祝気運の
高まる中での開催でありまし
た。

当日は、御来賓に櫻井豊彦
静岡県神社庁長をお迎えし、
賀茂支部、駿東支部、富士支
部、清水庵原支部、静岡支部、
志太支部、田方支部より神職
八十九名の参加を戴いての開
催となりました。

第一部ではまず式典を執り
行い、御来賓の櫻井庁長様よ
り御祝辞を頂戴し、前回当番
支部である清水・庵原支部中
跡和史支部長より前年度研究
会経過の報告を頂いた後、休
憩を挟み講演を拝聴致しまし
た。

天皇陛下御即位の佳節と重

なる本年は、御即位に係る行
事や祭祀の見識を深めるべく
元宮内庁掌典次長山田蓉先生
を講師にお招きし、『御代替
わりの諸儀と宮中祭祀』と題
しお話し頂きました。御譲位
から御即位に至る迄の諸儀式
や諸行事、その参考となる登
極令について、諸儀式の中よ
り即位礼正殿の儀並びに大嘗
祭を中心に解説頂き、天皇陛
下御即位の年に相応しい御講
演を賜りました。

第二部の懇親会には講師先
生にも御参加頂き、講演では
お聞きできなかった貴重なお
話をお伺いするなど、皆様方
との御即位に向けての歓談を
通し地域での奉祝気運の更な
る醸成の必要性を確認しつ
つ、午後二時半に解散となり
ました。

御来賓の櫻井庁長様を始め
御参加頂きました皆様には、
御多忙の中足をお運び頂き誠
に有り難く、衷心より御礼申
上げます。

第二百二十五回遠江神職研究会 (当番 榛原支部)

令和元年六月十九日遠江地
区一番東の、そして最北端川
根本町徳山にて遠江神職研究
会を開催いたしました。

大井川以西の八支部からな
るこの研究会も百二十五回を
数えることになり、又、令和
最初の研究会テーマとしてふ
さわしかったか判りませんが
「過疎地域神社活性化と民俗
芸能伝承」と題し、活動発表
の場とし地元徳山古典芸能保
存会理事山下神職を迎へ、六
十七名の参加を戴き盛会の内
に執り行うことができました。

参加者一同は先ず県指定天
然記念物「鳥居スギ」のあ
る国指定重要無形民俗文化
財「徳山の盆踊」が奉納され
る浅間神社を正式参拝後、徳
山コミュニティ防災センター
研究室へ会場移動し直会（昼
食）・開講式を執り行い、続
いて研究会を開催。

「地域の活性化は神社から
神社の活性化は地域から」
を基に地域全体を自然公園と
して訪れる人達で活気ある地

域にしたいと夢みて、還暦に
現役引退後、神職になること
から始めた宮司の地域活動記
録発表が行われました。

活動資料の決定から、情報
収集・発信、各種団体との交
流等プロジェクトを使用し
現況の説明を戴きました。

「日本で最も美しい村連合」
「ふじのくに美しく品格のあ
る邑」、「全国民俗芸能風流保
存・振興連合会」に加盟する
のに民俗文化の伝承が必要で
あること、ユネスコ無形文化
遺産登録に向けて活動してい
る報告を受けて、研究会を終
了しました。

再度会場を川根温泉へ移し、
夕食を兼ねて懇親会を開催。

懇親会も和やかなうちに中
締めとなり、温泉で体を癒す
人、各部室で親交を深めた人
とそれぞれ楽しい一時を過ご
し、翌日朝食後自由解散しま
した。

参加者各々が神職として神
社、地域に向き合う心構えを
新たにできた有意義な研修で
ありました。

御大典奉祝 全国神社関係者大会

令和元年十二月五日（木）、東京都渋谷区の明治神宮会館にて開催された神社本庁主催の「御大典奉祝全国神社関係者大会」に参加する為、早朝七時半に貸切バス一台にて三嶋大社を出発。当日は神社庁主催の新穀感謝祭参宮団の期日とも重なるため、県東部地区の賀茂、田方、駿東支部の神職・総代三十六名が参加。午前中は皇居内で一般参観中の大嘗宮を拝観。大嘗宮の一般参観は十一月二十一日、十二月八日の十八日間公開され期間中八十万人近くが訪れたとのこと。当日も晴天に恵まれ、多くの拝観者が訪れる中、長蛇の列に並んだ後、間近に拝観することが出来た。拝観の後、皇居を出発、バス車内での昼食を済ませ、大会会場の明治神宮会館に到着。午後二時より第一部「奉祝式典」が始まり国歌斉唱の後、鷹司尚武神社本庁統理が式辞を述べた。この中で鷹司統理は、御大礼の諸儀式が滞りなく終了したことに触れ、御一代一度の御大祭に全国各地の神社関係者から寄せられた奉祝の真心に対し感謝の意を表明された。

続いて来賓祝辞があり、小松揮世久神宮大宮司、三村明夫全国総代会会長、打田文博神道政治連盟会長、自由民主党幹事長代行・神道政治連盟国会議員懇談会事務局長の稲田朋美衆議院議員が登壇され、それぞれ祝辞を述べられた。次に田中恆清神社本庁総長が大会宣言を朗読し、満場の拍手にて宣言案が採択された。最後に綿貫民輔神社本庁長老の先導により聖寿万歳が奉唱され、祝意こもる力強い万歳の声が会場中をこだまし、第一部が終了した。

続いて第二部「奉祝奏舞」が始まり、大嘗祭にて悠紀地方に選ばれた栃木県と主基地方に選ばれた京都府よりそれぞれ地元伝統芸能が披露され会場中の人々を魅了し、大会は盛会裏に幕を閉じた。

大会宣言

皇統連綿として宝祚は天壤と窮まりなく、天皇陛下には即位の礼を挙げさせられ、大嘗の御祭を行はせ給ひました。

この大盛儀に、わが国の道統のゆるぎなく継承されてまわります有様を拝し得ましたことは、私どものこの上ない喜びとするところであります。

私ども神社関係者一同は、ここ代々木の神苑に相集ひ、御即位大礼を寿ぎ奉祝のまことを捧げ奉りて、心からお祝ひ申し上げるものであります。

さらには、高御座にましまして、宣らせ給はりました大御心を戴き、大嘗の御祭の大御業に神習ひ、祭祀を厳修してひたすら神明奉仕に専念すると共に、広く知識を求めて世界平和への相互理解を深め、四海あまねく平安に榮え行く大御代とするやう力の限りを尽くし、もって深遠なる叡慮に応へ奉りますことを、決意も新たに、ここに誓ふものであります。

右、謹みて宣言とします。

令和元年十二月五日

御大典奉祝全国神社関係者大会



大嘗宮拝観風景



式典風景

国民精神昂揚運動合同研修会報告

東部地区

第四十七回国民精神昂揚運動東部地区合同研修会は富士支部が当番支部として、令和



元年九月十七日午前十時より賀茂、田方、駿東、富士の四支部より三百五名の神職、総代が参加し、富士市富知六所浅間神社樟泉閣で開催されました。当番支部長

挨拶、神宮並びに管内神社遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、静岡県神社庁、神社総代会、神宮崇敬会、神道政治連盟の皆様方より御挨拶を戴きました。

午前の部の講演では、皇學館大学研究開発推進センター助教の佐野真人先生に「大嘗祭」と言う演題で御講演を頂きました。大嘗祭は、天皇が即位の礼の後、初



めて行う新嘗祭。新嘗祭は毎年十一月に、その年の新穀を天皇が神に捧げ、天皇自らも食す祭儀であります。当初は「大嘗祭」とはこの新嘗祭の別名でありました。後に、即位後初めての新嘗祭を一度行なわれる祭として、大規模に執り行うこととなり、律令ではこれを「踐祚大嘗祭」とよび、通常の大嘗祭（新嘗祭）と区別したそうです。大嘗祭の儀式の形が定まったのは七世紀の頃ですが、この頃はまだ通常の大嘗祭（新嘗祭）

と踐祚大嘗祭の区別はなく、通例の大嘗祭とは別に、格別の規模のものが執行されたのは天武天皇の時から初めてであったそうです。以降、大嘗祭の次第についてお教へ頂きました。

午後の講演は作家、ジャーナリストの山村明義先生に、「GHQの日本洗脳と憲法改正」と言う演題で御講演を頂きました。現代の憲法はGHQによってわずか十日間で作成されたもので、今すぐ改正すべきだと力説されました。



午後二時四十分、閉会式を行い解散となりました。以上、御報告させて頂きます。

（富士支部 小西英磨）

中部地区

令和元年九月六日午前十時より、大井神社宮美殿に於いて第四十七回国民精神昂揚運動中部地区合同研修会が開催されました。

当日は先ず櫻井庁長の挨拶から始まり、総代会、崇敬会、神政連、志太支部長よりの挨拶。

続いて午前中の研修である天皇陛下御即位三十年『奉祝感謝の集い』のDVD鑑賞。午後は皇学館大学教授 松本丘先生による『大嘗祭について』の講演を拝聴し、有意



義な研修会となりました。当日は二百七十八名の参加を戴き、盛会裏に終了となりました。

(志太支部 片川 徹)

西部地区

令和元年九月十一日 第四十七回国民精神昂揚運動西部地区合同研修会が、引佐支部当番にて、浜松市北区細江町の「浜松市みをつくし文化センター」にて開催されました。当日は晴天のもと三百八十三名の出席を頂き、開会の辞・神宮遙拝・国歌斉唱・敬神生

活の綱領唱和に続き、主催者である神社庁より河村基夫副庁長、県神社総代会より大橋正己副会長、神宮崇敬会県本部より松本孔副本部長、神道政治連盟より池野浩司幹事長に御挨拶を頂戴しました。

開会式に引き続き講演会となり、午前は皇学館大学研究開発推進センター助教佐野真人先生に

「大嘗祭について」との演題でご講演を頂き、御譲位による践祚（御即位）の実例から今回の皇位継承儀礼の中でも最も重要な祭儀である大嘗祭を事細かく熱心にご説明頂きました。

午後からは、山岳ガイド写真家の廣田勇介先生に、山岳お遍路「神様百名山を旅する」と題し、ご講演を頂きました。スライドを使用しての解説、



高所からの展望やパノラマ風景などを通して、一同実際登山したかのような荘厳な気持ちと、ご利益を肌で感じ取った次第でありました。

講演ののち、周知支部土屋克彦支部長の先導により聖寿の万歳を三唱し、次回当番の小笠支部若森幸雄支部長の閉会の辞を以って研修会を無事終了しました。

(引佐支部 藤野信幸)

御創立百二十年大祭を終えて

静岡縣護國神社 宮司 荻原久雄

静岡縣護國神社は、旧内務省指定護國神社五十二社の内の一社で、明治三十二年（西暦一八九九年）十一月十三日、戊辰戦争より台湾の役までの国難に殉じた静岡県出身者並びに同県に縁故のある軍人軍属五百五十四柱を鎮祭し御創立されました。

当初は「共祭招魂社」と呼称されていました。これは、



静岡県が明治維新の際「伊豆・駿河・遠江」の三地区より構成されていたためで、当時の建築趣意書にも「維新以来一縣共祭ノ招魂社ヲ建設」とあります。この後、昭和十四年四月一日、内務大臣告示第十四号に基づき、「静岡縣護國神社」と改称され現在に至っております。大東亜戦争終結後、「護國」の名称が軍国主義的思想を温存するとのことで社名変更を余儀なくされ、平和条約発効までの間「静霊神社」と改称していた時期もありました。

先述の通り当社は明治三十二年の御創立でありますから、昨令和元年が御創立百二十年となります。このため、十月二十二日、二十三日に斎行されました例祭を「御鎮座百二十年奉祝大祭」としてご奉仕させて頂きました。令和の御代となりました最初の年

にこの祭典をご奉仕出来ましたことは身に余る光栄であり、ご英霊（御祭神）をはじめ皆様方に感謝申し上げる次第であります。

第一日祭は、即位礼正殿の儀と同日でありましたので職員と助勤神職の皆様とご奉仕するにとどめ、第二日祭にご遺族他約三千名、静岡県副知事吉林章仁様・静岡県議会議長鈴木利幸様・静岡県神社庁長櫻井豊彦様を始めご来賓約百五十名にご参列を頂き、厳粛かつ盛大に祭儀を終えることが出来ました。特に静岡県神社庁のお心遣いで、県下十六支部より神職・総代約六百名のご参列を頂きましたことは、ご遺族の高齢化等により参列者が減少している今日、まことに有難く改めて紙面を借りて御礼申し上げます。

現在当社は、平成二十七年より取り組んでまいりました「大東亜戦争終結七十周年記念事業」の完遂を令和二年三月と見据え、最終段階を迎えております。御創立百二十一年目を迎えます本年以降、旧



静岡県遺族会館跡地を初めて致します境内各所の再整備を行いながら永久にご英霊をお護りすることが出来るよう社務の改革を目指して行く所存で御座います。併せて職員一同も心を新たにしてお神勤に励んで参ります。神職・総代の皆様方におかれましては、厳しい中にも温かいご指導ご鞭撻を賜りますれば有難い事と存じます。

末筆になりますが、各位ご存知よりのご遺族の皆様方に次代の方々への継承を御考慮賜りますようご鳳声頂きたくお願い申し上げます。

夏休み親子靖國神社参拝団

浜名支部 六所神社宮司 今 村 卓 也



令和元年八月十九日(二十日の二日間の日程で、静岡県神社庁主催・静岡県神社庁教化委員長・戸塚昌宏理事(熊野神社宮司)を団長として、夏休み親子靖國神社参拝団が執り行われました。

十九日早朝、大型バスで浜松駅を出発し、東名浜松IC、磐田IC、静岡ICにて順次参加者が乗車、県西部地区から親子十二組(高校生四名、中学生四名、小学校高学年八

名)及び神職など総勢三十五名にて、一路東京へ向かいました。

往路のバス車内では、戸塚団長の挨拶につづき、鈴木栄男初生衣神社宮司により、参加者に対して食前食後作法(「食前感謝」「食後感謝」)の説明が行われました。車中昼食において早速「たなつものー」と唱和され、子供達も真剣に声を上げておりました。

午後一時前、一日目の目的地である府中市の大國魂神社に到着。正式参拝の後、飯塚礼寿権禰宜より大國魂神社の由緒についてご説明いただき、更には宝物殿の中を特別にご案内してもらいました。八基の神輿や大太鼓の迫力に、参加者は皆目を丸くして、興味深く見学させていただきました。

大國魂神社を後にし、次に「三鷹の森ジブリ美術館」に到着。夏休み中ということもあり、大勢の来場客で賑わう中、

ジブリアニメに関わる様々なコーナーで楽しいひとときを過ごすことができました。

ジブリ美術館の見学を終え、宿に向かう車中で、戸塚団長より、明日正式参拝する靖國神社についての説明がありました。八月十五日は大東亜戦争終結の日であると同時に、戦争で亡くなられた方々にお祈りをする日であること、今生きている自分のいのちは、数え切れないほどの多くのいのちとつながり、「生かさせていただいている」ことなどを、わかりやすくお話しいただき、子供達は真剣に聞き入り、明日の靖國神社正式参拝の心構えを整えておりました。

午後五時にいったん宿舍へチェックインし、一行は築地江戸銀(老舗寿司店)にて夕食。ここでも昼食時につづいて食前食後作法が丁寧におこなわれ、江戸前寿司をおいしくいただき、無事一日目の日程を終えました。

二日目、明け方までの雨も上がり、子供達は学校の制服を着用して、清々しい気持ちで靖國神社へ向かいました。

九時三十分に到着すると、参集殿の控室へ通されます。山本眞吾禰宜より靖國神社について詳しくご説明をいただき、正式参拝の時刻となりました。

到着殿から本殿につづく回廊で一同修祓を受け、戸塚団長を先頭に、いよいよ本殿に上がります。厳粛な雰囲気の子供達は皆背筋を伸ばし、静かに厳かに正式参拝をさせていただきました。

参拝の後、遊就館にて、林紀孝権禰宜より展示内容についてご説明をいただきました。中でも御創立百五十年特別展において、「遠州報国隊」など、靖國神社御創立期にふるさとの先人が深く関わっていた事の話に、参加者一同大きく関心を寄せていました。

正式参拝・遊就館見学など二時間以上の多くの時間を費やし、参加した子供達には、靖國神社の事を深く学んではいただきました。本殿にて英霊に祈りを捧げ、歴史を心に刻みこむ事により、忘れることのない充実した夏休みの二日間だったと感じていただければ誠に幸いに思います。

第二十八回 こども参宮団

県神社庁（櫻井豊彦庁長）

は八月六日・七日両日、令和の御代最初となる第二十八回こども参宮団（団長＝戸塚昌宏県神社庁教化委員長）を結成し、小学生百五人を含む百二十八人が伊勢の神宮に参拝した。

八月六日早朝、参加者は県内各地より東名高速道路の浜名湖サービスエリアに集結し、バス四台にて三重県津市に今年新たに出来た施設「おやつタウン」に移動し、見学とお菓子作りの体験をした。普段何気なく食べているお菓子を、自分で作る体験に子供達は大変喜んだ様子であった。

夕刻、外宮に到着した一行は、神社本庁職員の案内のもと参拝。宿泊先の神宮会館に移動し、大講堂にて全体会を実施し、戸塚昌宏団長より翌日の内宮での参拝の作法、心得を分かりやすく教えて頂いた。そののち、夕食。食事の作法である食前・食後の感謝の和歌を唱和した。食後には翌朝行う禊の指導を行い、禊の着け方や鳥船行事などの作法を教授した。子供達は初めて着ける禊に戸惑いながらも、真剣に作法を練習した。

翌八月七日

日は午前六時に起床し、五十鈴川で禊を實施した。子供達は、朝の冷たい川の中に騒ぐ事無く真剣に入水し、身を清めた。

朝食後、揃いの白いポロシャツに着替えた子供達は神楽殿で御神楽を奉納したのち内宮、ご正宮に御垣内参拝した。子供達からは「初めて柵の中に入った。凄く緊張した。」「昨日の団長の話を思い出して参拝した。」といった感想が聞かれた。

午後はおかげ横丁を散策した。伊勢のお土産を家族の為に購入している姿は実に楽しそうに見えた。その後、（同県）鳥羽市より伊勢湾フェリーにて移動した。フェリー内では、普段見ることの出来ない船の操舵室の見学を行った。伊良湖岬に到着後、愛知県田原市の恋路ヶ浜にて解団式を実施し、戸塚団長から代表者に修了書が授与され、それぞれ帰路に着いた。

今回のこども参宮団にあたっては、例年同様に記録的な暑さの為、施設見学を屋内に



し、暑さ対策をした。また参加者の子供達の健康をこまめに確認して、引率者全員が子供の情報を共有できるように対応した。

御大典と言う時代の節目に皇室の御祖先を祀る伊勢の神宮へ参拝できることを、子供達がどのように感じたか。子供達にとつて改元はまだ分かり難いことだと思いが、成長した時に自分達が令和の時代の最初の年に伊勢の神宮に参拝した事が良い思い出になってくれたらと願いたい。

なほ参宮団には、河村忠伸県神道青年会会長はじめ、同会員二十三名が同行し運営等に協力した。また子供達が禊で身に着けた鉢巻や男子の禊、女子の白衣は県女子神職会の協力を得て縫製され、ご協力を頂いた皆様に御礼を申し上げます。

（実行委員長 加茂守啓）

僕の最後のこども参宮団

富士市立吉永第一小学校

六年 興津佑音

昨日と今日は、伊勢神宮へ行きお参りをしました。僕は今年で六回目です。

昨日、外宮へと行きました。外宮は、食べ物の神様です。

ぼくは、その神様にいつも、毎日食べ物を食べれてありがとうございます。と、伝えました。なので僕は、いつもふつうに食べているごはんは外宮の神様のおかげです。それを毎日、毎日食べるまに、「いただきます。」

と、言っています。いただきますには、すごく深い意味があることが、わかりました。次の日、朝六時よりも前に起きて、みそぎへと行きました。歩いて着いた場所、そこはすごくきれいな場所でした。川に入ろうと足を入れた瞬間、すごく冷たい水でした。けれどがんばって、こしまで入れました。上がる時には、かたまでつかっていました。自分の体を清めた後バスに乗って、内宮へと行きました。内宮は天照大御神と言う名前の、太陽の神様です。天照大御神は神様の内で一番尊い神様です。そんな神様に会えるなんてとてもうれしかったです。ぼくは、気を引きしめてお参りをしました。僕が行った所はふつうの人では、入れないすごく大切な所です。そこで二礼、二拍手、一礼をしました。

「なぜ二拍手をするのだろう？」と疑問に思いました。その答えは、神様と、心を同じにす

るのだそうです。そうすることで、神様とのきよりが短くなり、より感謝の言葉を伝えやすいことがわかりました。その後、舞という物を見ました。舞は神様に祈りをささげます。おはらいもしてもらいました。

これで神様への感謝が終わりしました。家に帰っても、「いただきます。」と「ごちそうさま。」を必らず言い、作ってくれた人、食べ物育ててくれた人に感謝をしたいと思います。

今日の夕飯は、おいしくなりそうです。

みんなで行ったお伊勢まいり

浜松中部学園

五年 山梨夏乃子

私は、この旅行でいろんなことを学びました。そして、友達と仲良くすごせました。

まず最初『おやつタウン』に行きました。『おやつタウン』では、友達とボルトリングや卓球などをしていっぱい遊びました。『おやつタウン』は遊ぶ所としてとても楽しい所でした。

そのあとは、『外宮』と『内宮』に行きました。そこには『天照大神』がいます。『天照大神』

御神』は、ごはんや、作物の神様です。『天照大神』は、私達の生活にかかせない神様です。『天照大神』がいっぱいやるからこそ、私達の生活、充実した生活ができているのだなということが分かった。だから、『天照大神』にはちゃんとお礼しなければいけないとかんじました。

この旅行をとうして、『天照大神』が、私達の生活にかかわっているし、充実した生活をおくらせてくれているということを知りました。なのでちゃんとごはんをたべるときは、お礼をして、たたく、のこさないようにたべようとかためて、おもいました。そして、友達とのかんけいももっとよくなったのでとてもいいりようだったと感じました。このけいけんをいかしこれからのせいにかつにいかしていかたらとてもいいと思います。また来年も行けたらいいと思います。

お伊勢まいり

静岡大学附属静岡小学校

五年 安野朝光

ぼくは、このツアーに参加するまでは神様を全く信じていませんでした。

ですがぼくは、このツアーに参加してからは、すこし信じるようになりました。もし神様がいなかったとしてもこのツアーでとても大事な物を感じたと思いました。それは昔の人のすごさとその神様に対するとても強い思いです。そしてその昔の人のとても強い思いがぼくに伝わり今回のツアーで少し信じるようになりました。もし神様がいるのであれば天照大神や氏神様などとても偉大なことからとてもみじかな方までうやまいながらそのありがたみを知りながら生活していきたいと思っています。そしてそのありがたみとは、ぼくたちが毎日の生活でつかうものやひそかな所などで支えてくれる神様がいます。例えば天照大神神様がなくなってしまうたらぼくたちの生活がなり立ちません。だって太陽がなければ作物も育たないし行事もなくなってしまうです。なのでいつも生活をつくってくれている神様たちにありがたみをもたなければいけないのです。さっきも話しましたがもし神様がなくなっても大事なことを見つけても大事なもの一つは、友情と親の大切さです。友情は、みんな

おやつタウンで遊んだ時に親の大切さは、いつもお母さんがやっていることを自分たちでやった時です。そのほかにもこのツアーをふり返った時に学んだことはいっぱいあると気づきました。例えばみそぎをして白い服をきないと行けない神様のしんせいさや友だちとの協力などなどいつもでは体験できないことなどを体験しいつものさんばいでは、気づけないこまかな所などとてもじゅうじつした二日になったと思いました。しかしこのツアーは、まだ終わっていませんなぜかと言うと今日体験したことをお家の人や近所の人、友達などに広めていさせんぜん知らないよというように人に広まりお伊勢さんのことをもっと知ってもらい、いろんな人に興味をもってもらえるといいなと思っています。なのでこのツアーはまだ終わっていないのです。今回の神様などのことだけではなく、ほかにも生活に活せそうなお所や活していくためになおしていきたいような所もみつかったのでもっとよいツアーになりました。また来年もこのツアーに参加してまた新しい発見をしてみたいなと思っています。

県民総参宮第六十五回新穀感謝祭 伊勢神宮参拝団

小笠支部

今回の新穀感謝祭に小笠支部は十一月二十八・二十九日の両日、七百五名バス二十台で参加させて頂きました。

小笠支部は毎年、県内で一番多くの参拝者が参加させて頂いておりますが、中には十年以上参加の方も多く、支部大会に於いて十回以上参加の方（神職以外）には感謝状を贈呈させて頂いております。

今回も七百五名の参加者がありました。前回参加者が七百名を切ったことから、神職をはじめ支部総代会の役員も七百名以上の参加を目標に、九月開催の支部大会に於いて参宮団のチラシを配布し参加を呼びかける他、十月に

多い例祭に於いて各神社でも呼びかけて来ました。

小笠支部は一日目、それぞれのバス乗車場所より浜名湖サービスエリアに集結しますが、バス二十台が集結するには無理があり、二団に分けて時間をずらしての行動となります。その後は熱田神宮に参拝、それ以後はバス毎に伊勢神宮までの間にある神社に参拝する地区、観光施設に寄る地区とバラバラになります。宿泊所も神宮会館や鳥羽のホテルに分宿となり、同じホテルに於いても地区毎の懇親となります。

二日目の神宮参拝も神楽殿の定員が四百名ほどです。で、二班に分けての参拝となります。外宮、内宮の御垣内

参拝の後、神楽殿にての御神楽奉納、七百名が一堂に集結するのは神宮会館にての直会となります。

七百名が一堂に集まつの直会は壮観で、毎年盛大に実施される参宮団は、神宮への敬神の念の厚さを感じ、神職並びに総代役員の参加者の募集から当日の引率まで尽力して頂いておりますことに感謝致しております。

静岡支部

「令和初参宮」と冠称して十二月十日・十一日一泊二日の日程で実施したところ、予定数を上回りバス十一台、四〇三名の参加を得た。

初日は、静岡市内の葵区駿

河区各地よりバスに分乗し、一号車から五号車を一班、六号車から十一号車を二班として編成出発した。まず、恒例となっている熱田神宮を正式参拝した。この日は特に天候もよく、熱田神宮職員の答礼でも「近日まれに見る穏やかな日和」とあって、幸先の良さを感じた。熱田神宮を出立し、本年の追加立寄り先に選定した津八幡宮・結城神社参拝に向かう。到着後、結城神社社頭へ進み各自、自由参拝。向拝にて宮崎宮司の出迎えを受けた。枝垂れ梅の梅林が著名とのことだが、些か時期尚早で冬の枯淡とした境内を銘々散策した。社殿と社務所会館群は戦火による消失から復興したとは俄に信じがたい趣が有った。続いて、隣接して鎮座している津八幡宮へ自由参拝。静岡縣護國神社と静岡県神社庁の立地よりも更に近接して鎮座している。津市総鎮守の八幡宮の境内地に

南朝忠将結城宗広公の小祠が興り、江戸期に結城神社へと発展、別格官幣社へと昇格したとのことで得心した。

両社は神職数が少なく、御朱印は事前申込み制の書置き取得のみとした。昨今の御朱印流行りとあって申し込みも一〇九人にのぼり、混乱なく書置き朱印を受領したが、抜け駆けで帳面に記帳を求める者が数名あったことは反省材料となろう。



外宮へ至り本年は神楽奉納、献穀米俵を捧げ奉った。正宮正式参拝を済ませ、後発の二班と出会うも、外宮神楽殿に二班二八名が入り切らず神職は待合所で待機の由。正座のできない方や、安座をする方が多ければ許容数も下がろうというもので、後学に活かす他はない。定時運行の一班に対し二班は外宮出立が三十分近く遅延したため、宿所到着から夕食までに十分な

時間が無く、連絡の不備をお詫び申し上げるばかりである。全員での夕食大宴会は、恒例通り実施できて安堵した。

翌日は、宿所を後に内宮へバスを進め、正宮を正式参拝した。前日御神楽奉納を済ませてあるため例年より余裕がある。おはらい町・おかげ横丁で時を過ごし家路につく。総じて天候に恵まれ、素晴らしい参宮となったが、運行や事務面で反省を感じる点もあり、今後の旅費値上げの可能性など、早急な対応を考えねばならないと感じながら帰宅した。

清水庵原支部

令和元年十一月十一日から十二日にかけて、清水支部一七六名がバス五台にて伊勢神宮参宮団として参加しました。十一日に熱田神宮へ正式参拝をして、熱田神宮会館にて昼食をいただきました。昼

食後、熱田神宮を出発し多度大社に正式参拝をしました。

鳥羽グランドホテルに宿泊し懇親会は清水支部総代会会長の青木様の挨拶、清水庵原支部長の挨拶、敬神婦人会会長小田切様の挨拶のあとに青木様の発声にて乾杯を行い、総代・敬神婦人会を始め参加者達と親睦を深めました。

翌日、外宮の御垣内参拝は二班にわかれて行いました。次に内宮に移動をして、外宮同様二班にわかれて御垣内参拝をしました。御神楽の奉納の後、バスで神宮会館の直会会場に移動をしました。中跡宮司が代表で挨拶をされました。日本舞踊観賞の後、直会となり、十三時四十五分の出発時間まで自由行動。

この伊勢神宮参拝団は、令和になって初めての参拝で、しかも支部長になって初めての参拝でもあったので、大変ありがとうございました。

駿東支部

県民総参宮第六十五回新穀感謝祭伊勢神宮参拝団の一班として、駿東支部は十一月七日～八日、バス七台で二百八十名が参加し実施いたしました。

一日目は駿東支部各地を夫々出発し、新東名清水SAで集結、参加者の確認等を済ませ熱田神宮に向け出発し正式参拝をさせて頂き、その後なばなの里まで進行し昼食。バスは外宮に向けて行程を進め車中では神宮に関するDVDを鑑賞し、少しく学びました。外宮に到着し、手水、祓を受け参道に進み、御正宮、多賀宮を参拝の後、宿泊地である鳥羽へと向かいました。ゆっくり風呂に入った後、楽しみの大宴会が始まりました。和やかに進み途中退席する人も無く一日目を無事に終了いたしました。

二日目は八時二十分に宿を

出発し内宮へ向かいます。手水・祓の後、御正宮・荒祭宮を参拝。お神楽奉納後、自由行動となり、おかげ横丁などで散策、お土産の準備をし、無事に帰路につきました。参加者はほぼ毎年参加している方、時々の方、初めての方と夫々でありましたが、初めて参加し次回も是非参加したいと云ってくれた方々が何名もいた事は大変嬉しく思った事でした。

神職や総代の皆様には、参加者の募集から当日のお世話まで大変なお力添えに改めて感謝を申し上げます。また神社庁の職員をはじめ関係者各位のご尽力に対しまして心より御礼を申し上げ報告とさせていただきます。

浜名支部

十二月四日から五日の両日浜名支部では神社関係者並に氏子崇敬者総勢二二六名にて

伊勢神宮参拝団を組織し、第六十五回新穀感謝祭の参拝をさせて頂きました。

各地よりバス六台に分乗し熱田神宮に正式参拝し伊勢に向かいました。外宮での御垣内参拝を終え鳥羽の宿に入り夜は懇親を深めました。

翌朝は内宮の御垣内参拝とお神楽奉納をさせて頂きおはらい町を散策、名古屋のリニア鉄道館を見学し帰路につきました。

御代替りという節目を迎え大嘗祭も無事斎行されまして御即位に関する諸祭諸行事が目度く整いました。

天皇皇后両陛下が神宮への御親謁を終えられましたこの時期、御皇室の御祖神であり日本の総氏神でもある伊勢の大神様に令和最初の参拝が叶いました事は誠に有り難く悦びも一入となりました。

この一年余り、御代替りの諸事を目にして参りましたが御譲位という形で御代替りが

為された事で、平成を迎えた時と比べ少し雰囲気違った様にも感じております。

平成の三十年間に上皇陛下上皇后陛下が国民に寄り添い国の安寧を只管、祈り願って下さった事にも依り御皇室に対する敬慕の念が一層深まり日本中が奉祝ムードに溢れた明るい御代替りを迎えられた様にも感じております。

この国が天皇陛下を中心に万世一系、一二六代に亘って栄えてきたという事を改めて思い起こす良い機会となった様にも思います。

そんな喜びと幸せな気分に伴われ、また天候にも恵まれ参拝させて頂きました。お世話になりました皆様にご心より御礼を申し上げます。



長野市千曲川氾濫地域復興支援活動報告

静岡県神道青年会

令和元年十月十二日の台風十九号により、全国各地で浸水や倒木などの被害が発生しました。静岡県神道青年会では台風直後より会員同士で連絡を取り合い、県内の被害状況の把握に努めるとともに、東海地区としての対応を東海五県会長間で協議しました。その結果、神社と氏子地域がともに甚大な被害を受けた長野市内の千曲川氾濫地域の神社復興支援活動を行うことを決定しました。

長野県神道青年会を中心に事前調査と計画を進めた結



果、ボランティアセンター開設と同じ十月十八日という早い時点で第一回の活動を行うことができました。静岡県からは河村忠伸、勝又清晶、加茂守啓、村瀬環、根本臣悟の五名が参加し、主として太田神社（長野市赤沼）の土砂の撤去作業に従事しました。この日を皮切りに神道青年会による復興支援活動は断続的に行われ、災害協定を結んでいる北陸地区、近畿地区からも応援があり、延べ二四一名が参加しました。静岡県からは二十一日に水野光、十一月十一日に河村、石津紀祥、勝又啓、森月俊雄、勝又清晶、十九日に河村、石津が参加しました。青年会が支援活動を行ったのは太田神社、八幡神社、伊勢社、守田神社の四社です。このうち太田神社は土砂



撤去の結果、境内が地域ボランティアの活動の拠点として活用されています。竣工直後に被災した八幡神社では、近畿・北陸地区と合同で境内の土砂を撤去しました。伊勢社では境内の土砂を近隣住民の協力を得ながら撤去しました。守田神社は社殿が流失したため、静岡県神道青年会から東海地区協議会を通じて仮宮を奉納しました。この仮宮は静岡木工より寄贈されたものです。

今回、長野県神道青年会を通じて被災神社から依頼を受けたのは、境内の土砂の除去など人海戦術を必要とする作業です。依頼を受けた分については、十一月十九日の作業をもって目標を達成すること

ができました。しかし被災神社においては、これから浸水した社殿の修理や祭器具の洗浄・調製などがあり、当会としては東海地区と連携し引き続き支援を続けていきたいと考えております。

今回の支援活動に際しては、静岡県神社庁ならびに県内各位より多大なるご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。



教化指定モデル神社紹介

■東部

神社名 火牟須比神社
鎮座地 伊東市

宮司名 朝日啓之



当神社の氏子区域である伊東市鎌田区では、十月第二土曜日、日曜日の祭典には、八町内による神輿や山車の引き回しが行われてきました。

しかし、現在では四町内による山車の引き回しが行われるのみとなってきました。

大人中心の演芸大会は、子供の出演するダンス等の演目が終わると観客はいなくなりました。

また山車の太鼓も中学生男子と決まっていたましたが、少子化により今では女子や小学生がその中心となっています。

氏子総代会では演芸大会を一旦中止し、子供中心の太鼓合戦を行うこととしました。

山車を引く町内には、午後五時から六時まで神社に留まってもいい、その間に神社庁

屋で四町内による太鼓合戦を行うこととしました。

太太鼓、小太鼓は神社で購入し、不足部分は郷土芸能保存会から借用しました。

山車が無く太鼓を叩くことのできない町内の幼稚園から小学校五年生までの十五名の子供たちが参加しましたが、太鼓を初めて叩く子供たちには短期間で祭囃子の演奏習得が困難なため、幼稚園から小学生を対象にした和太鼓のテキストにより、九月初めから毎週日曜日夜七時から一時間練習を開始しました。

指導には郷土芸能保存会のメンバー、教員を務める保護者が当たり、演奏内容が簡単なこともあり一か月ほどで二曲の演奏は仕上がり、子供たちが考えた開始と終了の挨拶、太鼓を叩きながら回ったり、踊ったりという振付を付けて演奏は完成しました。

しかし、太鼓合戦を予定していた宵宮は雨のため予定を翌日の本祭神事の前に変更し、町内会の協力を得て午後

一時から実施しました。

開始前には四町内の山車が神社鳥居前に集結し、太鼓等楽器を神社庁屋に移動し、演奏開始。境内には山車を引く子供と親、祭典役員など溢れんばかりの人出で、太鼓合戦は成功裏に終了しました。

お祭りが縮小した原因は、少子化もありますが、それ以上に大人が地域の繋がりを敬遠することにあると感じます。余計な役には就きたくない、地域の繋がりにメリットを感じないと考えている人がいる様に思われます。

地域コミュニティの中心となっていたお祭りが出来なくなった町内では共同体意識が薄れ、氏子総代を始め地域役員の選出が困難になり、活動が低下してきています。

教化指定モデル神社の指定にあたり、子供を中心としたお祭りが多くの大人を巻き込んだ連帯感を生むコミュニケーションの場となることを期待し、各町内がバラバラで行っていた祭が、神社を中心とした鎌田区全体の祭りになることにより、地域の連帯感、結束力を強め、より活性化することを期待したいと思っています。

■中部

神社名 服織田神社
鎮座地 牧之原市
宮司名 川村忠弘



今回服織田神社が教化指定モデル神社に指定された。

中部地区に於いては二期連続で榛原支部より指定された事に忝さを感じる所であるが、令和最初の指定という記念すべき事でもあり謹んで受けさせて頂きたいと思う。

個人的な事であるが服織田神社宮司を拝命して早や八年が経過した。私は神職の役目の一つとして氏神様と氏子の橋渡しが重要であると考えている。細々とはあるが教化活動も実施してきているので「指定されたので特別に何かを」という事も無く継続して責任役員や総代の力をお借りして氏子の皆様に氏神様、神社神道をご理解頂き、いつでもご参拝願いたいと思う。

氏子の中には毎日又毎月御参拝される方も少なからずいるが、大多数は年に数回しか神社に足を運ばないように思う。正月、夏越・年越大祓、例大祭など神社で祭典行事が催される時である。また年末

には社頭に御札を受けに参られる方もいるが話を聞くと神棚に何の神様をお祀りしているか知らずに義務的・習慣的に御札を取り替えている方も若干見受けられる。定期的に神社本庁などの教化資材を頒布しているが、責任役員や総代など直接神社に関わる方々以外には仲々教化できていないのが現状である。

昨年は天皇陛下御即位により全国的に皇室並に神社に注目の集まる年であった。服織田神社でも平成三十年の台風被害の復興事業と今回の奉祝記念事業を併せ「事業実行委員会」を期間限定で組織し、

台風で倒壊した手水舎他の復興、新に節分祭（福豆撒き）の斎行、「服織田神社例大祭」の斎行の作成、頒布など教化活動又記念事業として行った。氏子の中には奉祝記念として神社の由緒看板、例大祭用提灯、拝殿前の鈴緒などの奉納を申し出て下さる方もあり少しづつではあるが成果があった様に思う。また近くの小学校から課外授業の一つとして神社やお祭りの話をしたいとの要望があり、三十分程神社や神話の話をさせて頂いたが、普段聞く事のない話

に先生を含め大変興味を持って頂いた。

今後継続して様々な形で教化活動を行う予定である。特に若い世代の方々が参加できる祭典行事を行い、神社に関わる機会を設け「神社に行ったら楽しい。何かいい事がある」と思ってもらえることが、神社の発展に繋がると思う。

何ができるかわかりませんが、様々な形で教化活動を実施し、他の神社の参考になるような活動が一つでも多くできると神明奉仕に励んで行きたいと思う。

■西部

神社名 初生衣神社
鎮座地 浜松市
宮司名 鈴木栄男



この度は、教化指定モデル神社に当社をお選び戴き、ありがとうございます。当社の宮司を拝命したのは、平成二十九年四月一日で、三年目でございます。先代宮司が、兼務神社を含め、五社の宮司職を突然退任し、今までの資料も少ない中、試行錯誤の日々を過ごしております。就任までの間に電気も水道も

止められ、手水鉢も半年間、空の状態でした。残されていた百三十六万円を元手に、まず電気と水道を引くところから始めました。当社は崇敬神社ですので、自治会からの醸出金も無く、宮司自らが資金調達していかなくてはなりません。名ばかりの奉賛会をしつかりとした崇敬会にすべく、まずは三ヶ日町内の企業や商店を廻り、ご賛同頂ける皆様にご協力をして戴き、今日まで来ております。

当社は、天棚機姫命をお祀りしており、遠州織物の発祥の地として崇敬され、四月第二土曜日の当社例祭「おんぞ祭り」には、遠州織物に携わっている掛川以西の織物の組合等の団体、企業や商店、奉賛会会員、崇敬者、地元の皆様に参加して戴き、盛大に執り行っております。その後、毎年五月十五日には皇大神宮へ御衣（おんぞ）を奉献し、神宮司庁に於いて「おんぞ奉献式」を行なっております。

今回、教化指定モデル神社として、靖國神社へ遠州織物と遠州特産品を奉納する事業を計画致しました。今の平和な日本がありますのは、先の大戦で衣食に困りながらも、

国のため尽された御英霊のお蔭です。遠州は、泉州（大阪）、三河（愛知）と並ぶ日本の三大織物産地です。遠州織物発祥の社として、今後も日本が衣食に困らず、平和に繁栄することを祈念するための事業です。遠州織物は（有）ぬくもり工房様より遠州綿紬を、又特産品は町内の（株）長坂養蜂場様より蜂蜜をそれぞれ奉納頂けることになり、令和二年二月十二日～十三日にバス一台で実施しました。まず静岡縣護國神社に正式参拝し、靖國神社に奉納後は、乃木神社へ正式参拝を致しました。それに先立ち二月九日の祈年祭に併せ、遠州織物・遠州特産品靖國神社奉納奉告祭を斎行致しました。

また、当社は崇敬神社ですので、参拝者を増やさないといいけません。これまで費用の面で行っていませんでした「おんぞ祭り」のポスター制作、宮司拝命より八月最終土曜日に行っています「棚機祭」のポスター制作を考えております。静岡県神社庁からの貴重な助成金は以上の様な事業に有意義に使わせていただきますので、宜しくお願い申し上げます。

神社本庁過疎地域神社活性化地域指定について

川根地域活性化推進委員 山下 忠之

平成三十年一月一日付けの神社本庁認定書ですが、七月の教化委員会総会で発表され、活動を開始したばかりというのが現状です。

川根地域は県内でも特に過疎が進んでいる地域で、小さな集落が多く、集落ごとに神社があり、氏子世帯数五十世帯未満の神社が三十二社もあり、お祭り斎行にも苦勞しております。

推進組織は、川根の青木充禰宜・中川根の山下慎吾宮司・本川根の芹澤範明禰宜を中心に、川根全地域の宮司がサポートする形で活動を推進しています。

当地域には、例祭に於いて神楽奉納がなされている神社が多く、この神楽・特殊神事の保存をしながら活性化を推進することとし、

・神楽を含め例祭の映像保存
・県指定を受けているが、休

眠状態の保存会活動の再開
・神楽保存会同志の交流会の再開を計画しております。
現在の活動状況としては、

・神楽の映像化は、大祭の時のみ演じられる神社、お祭りが重なる神社等もあり、今年撮影が八神社完了しました。

・九月七日には、行政主導で川根本町伝統文化保存会が発足され、近郷の地域に根差した伝統芸能を、新しく出来た「伝承館」で披露し、当地域の保存会も出演しました。

・九月十四日には、休眠状態の田代神楽保存会が、十年ぶりに地元神社例祭に神楽を奉納しました。

・十月五日には静岡浅間神社にて開催された「大神楽祭」に三団体が招待され、安倍川流域の保存会の皆様と第九回「夜びいと神楽」以来

の共演を楽しみ、懇親を深めました。

次に神社本庁指定以前より地域活性化、神社活性化に取り組んでいる川根本町徳山の活動を紹介します。

行政・自治会・保存会・神社とが意思の疎通を密にし、情報発信も継続しております。

「日本で最も美しい村連合」に川根本町が、「ふじのくに美しく品格のある邑」に徳山が、「全国民俗芸能風流保存・振興連合会」に保存会

がそれぞれ加盟し、神社で奉納される民俗文化の伝承が地域資源となっており、県知事表彰受賞にあたり県から数人の先生方が神社に來られ、お祭の様子を調査されました。

故郷を誇りに思う心を育む為に、小学校、中学校、川根高校へ保存会員の者が、郷土芸能の指導を行っております。

情報発信は、行事お



田代大井神社例祭

祭りが開催される都度、静岡新聞・広報川根本町に掲載して頂いております。県季刊誌、県中部圏の季刊誌、神社新報等にも掲載、最近ではネットでも神社が紹介されている様です。静岡新聞が発行元で町の様子・徳山の盆踊・徳山神楽九十五頁の写真集も発刊されました。

このように川根本町・自治会・保存会・神社ワンチームで活性化に取り組んでおります。

神社庁のあゆみ

自平成31年4月1日
至令和元年12月31日

神社庁のあゆみ				
	於沼津市民文化センター 富士支部神社関係者大会 於富知六所浅間神社樟泉閣 第66回静岡県崇敬神婦人連合会大会 於森町文化会館ミキホール	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 15日 来宮神社例祭 秋篠宮皇嗣同妃両殿下奉送迎 至18日	7月 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁	
4月	24日 第66回静岡県崇敬神婦人連合会大会 於森町文化会館ミキホール	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 庁報編集委員会 於神社庁 30日 駿豆神職研究会 31日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
5日	5日 静岡県浅間神社例祭（廿日会祭） 6日 東海五県神社庁臨時本庁評議員会 於熱田神宮会館 7日 辞令伝達式（1名） 8日 天皇陛下御即位30年奉祝感謝の集い 於国立劇場 9日 神政連全国選挙対策委員会 於神社本庁 10日 庁報編集委員会 於神社庁 11日 志太支部神社関係者大会 12日 於焼津市焼津文化会館 13日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 14日 伊豆山神社例祭 15日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 16日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 17日 久能山東照宮例祭 18日 小國神社例祭 19日 西部地区教化研修会 20日 中部地区教化研修会 21日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
6日	6日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 7日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 8日 天皇陛下御即位30年奉祝感謝の集い 於国立劇場 9日 神政連全国選挙対策委員会 於神社本庁 10日 庁報編集委員会 於神社庁 11日 志太支部神社関係者大会 12日 於焼津市焼津文化会館 13日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 14日 伊豆山神社例祭 15日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 16日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 17日 久能山東照宮例祭 18日 小國神社例祭 19日 西部地区教化研修会 20日 中部地区教化研修会 21日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
7日	7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
8日	8日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
9日	9日 東海五県神社庁臨時本庁評議員会 於熱田神宮会館 10日 天皇陛下御即位30年奉祝感謝の集い 於国立劇場 11日 神政連全国選挙対策委員会 於神社本庁 12日 庁報編集委員会 於神社庁 13日 志太支部神社関係者大会 14日 於焼津市焼津文化会館 15日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 16日 伊豆山神社例祭 17日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 18日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 19日 久能山東照宮例祭 20日 小國神社例祭 21日 西部地区教化研修会 22日 中部地区教化研修会 23日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
10日	10日 天皇陛下御即位30年奉祝感謝の集い 於国立劇場 11日 神政連全国選挙対策委員会 於神社本庁 12日 庁報編集委員会 於神社庁 13日 志太支部神社関係者大会 14日 於焼津市焼津文化会館 15日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 16日 伊豆山神社例祭 17日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 18日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 19日 久能山東照宮例祭 20日 小國神社例祭 21日 西部地区教化研修会 22日 中部地区教化研修会 23日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
11日	11日 神政連全国選挙対策委員会 於神社本庁 12日 庁報編集委員会 於神社庁 13日 志太支部神社関係者大会 14日 於焼津市焼津文化会館 15日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 16日 伊豆山神社例祭 17日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 18日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 19日 久能山東照宮例祭 20日 小國神社例祭 21日 西部地区教化研修会 22日 中部地区教化研修会 23日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
12日	12日 庁報編集委員会 於神社庁 13日 志太支部神社関係者大会 14日 於焼津市焼津文化会館 15日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 16日 伊豆山神社例祭 17日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 18日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 19日 久能山東照宮例祭 20日 小國神社例祭 21日 西部地区教化研修会 22日 中部地区教化研修会 23日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
13日	13日 神社総代会庵原支部総会 於由比生涯学習交流館 14日 伊豆山神社例祭 15日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 16日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 17日 久能山東照宮例祭 18日 小國神社例祭 19日 西部地区教化研修会 20日 中部地区教化研修会 21日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
14日	14日 伊豆山神社例祭 15日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 16日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 17日 久能山東照宮例祭 18日 小國神社例祭 19日 西部地区教化研修会 20日 中部地区教化研修会 21日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
15日	15日 伊豆山神社例祭 16日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 17日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 18日 久能山東照宮例祭 19日 小國神社例祭 20日 西部地区教化研修会 21日 中部地区教化研修会 22日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
16日	16日 静岡県戦没戦死者春季追悼式 17日 於静岡県戦没戦死者慰霊標前 18日 久能山東照宮例祭 19日 小國神社例祭 20日 西部地区教化研修会 21日 中部地区教化研修会 22日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
17日	17日 久能山東照宮例祭 18日 小國神社例祭 19日 西部地区教化研修会 20日 中部地区教化研修会 21日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員会 於神社庁 13日 神道政治連盟中央委員会 至12日 於神社本庁 15日 神社庁事務担当者会議 至14日 於神社本庁 18日 氏青・神青交流会 19日 総代会・崇敬会・神政連合同役員会 於神社庁 20日 敬婦役員会 於神社庁 25日 遠江神職研究会 至20日 26日 田方支部神社関係者大会 28日 総務委員会 於神社庁 29日 神社庁定例協議員会 於神社庁 30日 静岡県神社総代会定例評議員会 於神社庁 31日 （財）伊勢神宮崇敬会静岡県本部定例評議員会 於神社庁 32日 神道政治連盟静岡県本部定例代議員会 於神社庁 33日 庁報編集委員会 於神社庁 34日 敬婦総会 於神社庁 35日 神青会役員会・総会・神職身分昇進祝賀会 於神社庁他	1日 月次祭 辞令伝達式（2名） 神社庁支部長・事務担当者会議 於神社庁
18日	18日 小國神社例祭 19日 西部地区教化研修会 20日 中部地区教化研修会 21日 駿東支部神社関係者大会	1日 月次祭 3日 富知六所浅間神社例祭 4日 五社神社諏訪神社例祭 7日 東海五県神社庁連合評議員会 於ホテル翔峰（当番長野県） 8日 東海五県連合総会 於キッセイ文化ホール 10日 庁報編集委員会 於神社庁 18日 辞令伝達式（1名） 20日 神社庁財務委員会 21日 全国神社総代会代議員会 於神社本庁 22日 神社本庁表彰式 於明治記念館 23日 神社本庁評議員会 至25日 於神社本庁 25日 班斂式 於神社本庁 28日 教化幹部会 於神社庁 29日 駿豆神職研究会 30日 神社本庁システム関係会議 於神社本庁	1日 月次祭 3日 福祉委員会 於神社庁 4日 神社庁監査会 於神社庁 6日 総代会・崇敬会・神政連合同監査会 於神社庁 11日 神社庁役員	

25日	神宮大麻・暦頒布始奉告祭	22日	井伊谷宮例祭	21日	榛原支部神社関係者大会	19日	東部地区国民精神昂揚運動合同 研修会	18日	神宮大麻頒布始祭 於神宮	17日	全国敬神婦人大会 於広島県	12日	神社庁役員会 於神社庁 総務委員会 於神社庁 教化委員会 於神社庁	11日	西部地区国民精神昂揚運動合同 研修会	9日	実務教養研修会 至10日 於神 社庁	7日	矢奈比賣神社例祭 全国氏子青年協議会東海地区連 絡協議会研修会 至8日 於岐 阜県	6日	東海五県参事会 至7日 於神宮会館	5日	小笠支部神社関係者大会	4日	神社庁祭祀研修会・雅楽研究会	3日	総代会全国大会研修旅行 至5 日	2日	日本会議浜松支部総会 於クラウンパレス浜松	1日	月次祭	9月	於神社庁																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		30日	神道政治連盟公開憲法フォーラ ムin愛知 於名古屋コンベンシ ョンホール	29日	伊古奈比咩命神社例祭	25日	自由民主党静岡県連党員・党友 の集い(西部)	24日	浜松支部神社関係者大会	23日	静岡縣護國神社慰霊大祭	22日	静岡縣護國神社例祭並即位礼奉 祝祭 於神社庁	19日	静岡県氏子青年協議会総会 於神社庁	18日	自由民主党静岡県連党員・党友 の集い(中部)	17日	駿河神社例祭	13日	大井神社例祭	11日	自由民主党静岡県連党員・党友 の集い(東部)	7日	東海五県庁長・参事会 至8日 於長野県松本市	3日	参宮団打合せ会 於神社庁	1日	月次祭	27日	静岡県別表神社宮司会 於浮月楼	23日	総代会・崇敬会・神政連合同監 査会 於神社庁																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		5日	関東甲信越静地区宗教法人実務 研修会 至6日 於千葉県	4日	富士山本宮浅間大社例祭	3日	辞令伝達式(2名)	2日	参宮団第1班 至8日	1日	参宮団第2班 至12日	31日	参宮団第3班 至27日	30日	参宮団第4班 至29日	29日	東海五県紅葉会総会 至29日 於長野県千曲市	28日	天皇家下御親調奉送迎 至23日 於神宮	26日	参宮団第3班 至27日	22日	参宮団第4班 至29日	18日	参宮団第5班 至5日 於明治神宮	17日	参宮団第6班 至11日	16日	参宮団第7班 至11日	15日	参宮団第8班 至11日	14日	参宮団第9班 至11日	13日	参宮団第10班 至11日	12日	参宮団第11班 至11日	11日	参宮団第12班 至11日	10日	参宮団第13班 至11日	9日	参宮団第14班 至11日	8日	参宮団第15班 至11日	7日	参宮団第16班 至11日	6日	参宮団第17班 至11日	5日	参宮団第18班 至11日	4日	参宮団第19班 至11日	3日	参宮団第20班 至11日	2日	参宮団第21班 至11日	1日	参宮団第22班 至11日	31日	参宮団第23班 至11日	30日	参宮団第24班 至11日	29日	参宮団第25班 至11日	28日	参宮団第26班 至11日	27日	参宮団第27班 至11日	26日	参宮団第28班 至11日	25日	参宮団第29班 至11日	24日	参宮団第30班 至11日	23日	参宮団第31班 至11日	22日	参宮団第32班 至11日	21日	参宮団第33班 至11日	20日	参宮団第34班 至11日	19日	参宮団第35班 至11日	18日	参宮団第36班 至11日	17日	参宮団第37班 至11日	16日	参宮団第38班 至11日	15日	参宮団第39班 至11日	14日	参宮団第40班 至11日	13日	参宮団第41班 至11日	12日	参宮団第42班 至11日	11日	参宮団第43班 至11日	10日	参宮団第44班 至11日	9日	参宮団第45班 至11日	8日	参宮団第46班 至11日	7日	参宮団第47班 至11日	6日	参宮団第48班 至11日	5日	参宮団第49班 至11日	4日	参宮団第50班 至11日	3日	参宮団第51班 至11日	2日	参宮団第52班 至11日	1日	参宮団第53班 至11日	31日	参宮団第54班 至11日	30日	参宮団第55班 至11日	29日	参宮団第56班 至11日	28日	参宮団第57班 至11日	27日	参宮団第58班 至11日	26日	参宮団第59班 至11日	25日	参宮団第60班 至11日	24日	参宮団第61班 至11日	23日	参宮団第62班 至11日	22日	参宮団第63班 至11日	21日	参宮団第64班 至11日	20日	参宮団第65班 至11日	19日	参宮団第66班 至11日	18日	参宮団第67班 至11日	17日	参宮団第68班 至11日	16日	参宮団第69班 至11日	15日	参宮団第70班 至11日	14日	参宮団第71班 至11日	13日	参宮団第72班 至11日	12日	参宮団第73班 至11日	11日	参宮団第74班 至11日	10日	参宮団第75班 至11日	9日	参宮団第76班 至11日	8日	参宮団第77班 至11日	7日	参宮団第78班 至11日	6日	参宮団第79班 至11日	5日	参宮団第80班 至11日	4日	参宮団第81班 至11日	3日	参宮団第82班 至11日	2日	参宮団第83班 至11日	1日	参宮団第84班 至11日	31日	参宮団第85班 至11日	30日	参宮団第86班 至11日	29日	参宮団第87班 至11日	28日	参宮団第88班 至11日	27日	参宮団第89班 至11日	26日	参宮団第90班 至11日	25日	参宮団第91班 至11日	24日	参宮団第92班 至11日	23日	参宮団第93班 至11日	22日	参宮団第94班 至11日	21日	参宮団第95班 至11日	20日	参宮団第96班 至11日	19日	参宮団第97班 至11日	18日	参宮団第98班 至11日	17日	参宮団第99班 至11日	16日	参宮団第100班 至11日	15日	参宮団第101班 至11日	14日	参宮団第102班 至11日	13日	参宮団第103班 至11日	12日	参宮団第104班 至11日	11日	参宮団第105班 至11日	10日	参宮団第106班 至11日	9日	参宮団第107班 至11日	8日	参宮団第108班 至11日	7日	参宮団第109班 至11日	6日	参宮団第110班 至11日	5日	参宮団第111班 至11日	4日	参宮団第112班 至11日	3日	参宮団第113班 至11日	2日	参宮団第114班 至11日	1日	参宮団第115班 至11日	31日	参宮団第116班 至11日	30日	参宮団第117班 至11日	29日	参宮団第118班 至11日	28日	参宮団第119班 至11日	27日	参宮団第120班 至11日	26日	参宮団第121班 至11日	25日	参宮団第122班 至11日	24日	参宮団第123班 至11日	23日	参宮団第124班 至11日	22日	参宮団第125班 至11日	21日	参宮団第126班 至11日	20日	参宮団第127班 至11日	19日	参宮団第128班 至11日	18日	参宮団第129班 至11日	17日	参宮団第130班 至11日	16日	参宮団第131班 至11日	15日	参宮団第132班 至11日	14日	参宮団第133班 至11日	13日	参宮団第134班 至11日	12日	参宮団第135班 至11日	11日	参宮団第136班 至11日	10日	参宮団第137班 至11日	9日	参宮団第138班 至11日	8日	参宮団第139班 至11日	7日	参宮団第140班 至11日	6日	参宮団第141班 至11日	5日	参宮団第142班 至11日	4日	参宮団第143班 至11日	3日	参宮団第144班 至11日	2日	参宮団第145班 至11日	1日	参宮団第146班 至11日	31日	参宮団第147班 至11日	30日	参宮団第148班 至11日	29日	参宮団第149班 至11日	28日	参宮団第150班 至11日	27日	参宮団第151班 至11日	26日	参宮団第152班 至11日	25日	参宮団第153班 至11日	24日	参宮団第154班 至11日	23日	参宮団第155班 至11日	22日	参宮団第156班 至11日	21日	参宮団第157班 至11日	20日	参宮団第158班 至11日	19日	参宮団第159班 至11日	18日	参宮団第160班 至11日	17日	参宮団第161班 至11日	16日	参宮団第162班 至11日	15日	参宮団第163班 至11日	14日	参宮団第164班 至11日	13日	参宮団第165班 至11日	12日	参宮団第166班 至11日	11日	参宮団第167班 至11日	10日	参宮団第168班 至11日	9日	参宮団第169班 至11日	8日	参宮団第170班 至11日	7日	参宮団第171班 至11日	6日	参宮団第172班 至11日	5日	参宮団第173班 至11日	4日	参宮団第174班 至11日	3日	参宮団第175班 至11日	2日	参宮団第176班 至11日	1日	参宮団第177班 至11日	31日	参宮団第178班 至11日	30日	参宮団第179班 至11日	29日	参宮団第180班 至11日	28日	参宮団第181班 至11日	27日	参宮団第182班 至11日	26日	参宮団第183班 至11日	25日	参宮団第184班 至11日	24日	参宮団第185班 至11日	23日	参宮団第186班 至11日	22日	参宮団第187班 至11日	21日	参宮団第188班 至11日	20日	参宮団第189班 至11日	19日	参宮団第190班 至11日	18日	参宮団第191班 至11日	17日	参宮団第192班 至11日	16日	参宮団第193班 至11日	15日	参宮団第194班 至11日	14日	参宮団第195班 至11日	13日	参宮団第196班 至11日	12日	参宮団第197班 至11日	11日	参宮団第198班 至11日	10日	参宮団第199班 至11日	9日	参宮団第200班 至11日	8日	参宮団第201班 至11日	7日	参宮団第202班 至11日	6日	参宮団第203班 至11日	5日	参宮団第204班 至11日	4日	参宮団第205班 至11日	3日	参宮団第206班 至11日	2日	参宮団第207班 至11日	1日	参宮団第208班 至11日	31日	参宮団第209班 至11日	30日	参宮団第210班 至11日	29日	参宮団第211班 至11日	28日	参宮団第212班 至11日	27日	参宮団第213班 至11日	26日	参宮団第214班 至11日	25日	参宮団第215班 至11日	24日	参宮団第216班 至11日	23日	参宮団第217班 至11日	22日	参宮団第218班 至11日	21日	参宮団第219班 至11日	20日	参宮団第220班 至11日	19日	参宮団第221班 至11日	18日	参宮団第222班 至11日	17日	参宮団第223班 至11日	16日	参宮団第224班 至11日	15日	参宮団第225班 至11日	14日	参宮団第226班 至11日	13日	参宮団第227班 至11日	12日	参宮団第228班 至11日	11日	参宮団第229班 至11日	10日	参宮団第230班 至11日	9日	参宮団第231班 至11日	8日	参宮団第232班 至11日	7日	参宮団第233班 至11日	6日	参宮団第234班 至11日	5日	参宮団第235班 至11日	4日	参宮団第236班 至11日	3日	参宮団第237班 至11日	2日	参宮団第238班 至11日	1日	参宮団第239班 至11日	31日	参宮団第240班 至11日	30日	参宮団第241班 至11日	29日	参宮団第242班 至11日	28日	参宮団第243班 至11日	27日	参宮団第244班 至11日	26日	参宮団第245班 至11日	25日	参宮団第246班 至11日	24日	参宮団第247班 至11日	23日	参宮団第248班 至11日	22日	参宮団第249班 至11日	21日	参宮団第250班 至11日	20日	参宮団第251班 至11日	19日	参宮団第252班 至11日	18日	参宮団第253班 至11日	17日	参宮団第254班 至11日	16日	参宮団第255班 至11日	15日	参宮団第256班 至11日	14日	参宮団第257班 至11日	13日	参宮団第258班 至11日	12日	参宮団第259班 至11日	11日	参宮団第260班 至11日	10日	参宮団第261班 至11日	9日	参宮団第262班 至11日	8日	参宮団第263班 至11日	7日	参宮団第264班 至11日	6日	参宮団第265班 至11日	5日	参宮団第266班 至11日	4日	参宮団第267班 至11日	3日	参宮団第268班 至11日	2日	参宮団第269班 至11日	1日	参宮団第270班 至11日	31日	参宮団第271班 至11日	30日	参宮団第272班 至11日	29日	参宮団第273班 至11日	28日	参宮団第274班 至11日	27日	参宮団第275班 至11日	26日	参宮団第276班 至11日	25日	参宮団第277班 至11日	24日	参宮団第278班 至11日	23日	参宮団第279班 至11日	22日	参宮団第280班 至11日	21日	参宮団第281班 至11日	20日	参宮団第282班 至11日	19日	参宮団第283班 至11日	18日	参宮団第284班 至11日	17日	参宮団第285班 至11日	16日	参宮団第286班 至11日	15日	参宮団第287班 至11日	14日	参宮団第288班 至11日	13日	参宮団第289班 至11日	12日	参宮団第290班 至11日	11日	参宮団第291班 至11日	10日	参宮団第292班 至11日	9日	参宮団第293班 至11日	8日	参宮団第294班 至11日	7日	参宮団第295班 至11日	6日	参宮団第296班 至11日	5日	参宮団第297班 至11日	4日	参宮団第298班 至11日	3日	参宮団第299班 至11日	2日	参宮団第300班 至11日	1日	参宮団第301班 至11日	31日	参宮団第302班 至11日	30日	参宮団第303班 至11日	29日	参宮団第304班 至11日	28日	参宮団第305班 至11日	27日	参宮団第306班 至11日	26日	参宮団第307班 至11日	25日	参宮団第308班 至11日	24日	参宮団第309班 至11日	23日	参宮団第310班 至11日	22日	参宮団第311班 至11日	21日	参宮団第312班 至11日	20日	参宮団第313班 至11日	19日	参宮団第314班 至11日	18日	参宮団第315班 至11日	17日	参宮団第316班 至11日	16日	参宮団第317班 至11日	15日	参宮団第318班 至11日	14日	参宮団第319班 至11日	13日	参宮団第320班 至11日	12日	参宮団第321班 至11日	11日	参宮団第322班 至11日	10日	参宮団第323班 至11日	9日	参宮団第324班 至11日	8日	参宮団第325班 至11日	7日	参宮団第326班 至11日	6日	参宮団第327班 至11日	5日	参宮団第328班 至11日	4日	参宮団第329班 至11日	3日	参宮団第330班 至11日	2日	参宮団第331班 至11日	1日	参宮団第332班 至11日	31日	参宮団第333班 至11日	30日	参宮団第334班 至11日	29日	参宮団第335班 至11日	28日	参宮団第336班 至11日	27日	参宮団第337班 至11日	26日	参宮団第338班 至11日	25日	参宮団第339班 至11日	24日	参宮団第340班 至11日	23日	参宮団第341班 至11日	22日	参宮団第342班 至11日	21日	参宮団第343班 至11日	20日	参宮団第344班 至11日	19日	参宮団第345班 至11日	18日	参宮団第346班 至11日	17日	参宮団第347班 至11日	16日	参宮団第348班 至11日	15日	参宮団第349班 至11日	14日	参宮団第350班 至11日	13日	参宮団第351班 至11日	12日	参宮団第352班 至11日	11日	参宮団第353班 至11日	10日	参宮団第354班 至11日	9日	参宮団第355班 至11日	8日	参宮団第356班 至11日	7日	参宮団第357班 至11日	6日	参宮団第358班 至11日	5日	参宮団第359班 至11日	4日	参宮団第360班 至11日	3日	参宮団第361班 至11日	2日	参宮団第362班 至11日	1日	参宮団第363班 至11日	31日	参宮団第364班 至11日	30日	参宮団第365班 至11日	29日	参宮団第366班 至11日	28日	参宮団第367班 至11日	27日	参宮団第368班 至11日	26日	参宮団第369班 至11日	25日	参宮団第370班 至11日	24日	参宮団第371班 至11日	23日	参宮団第372班 至11日	22日	参宮団第373班 至11日	21日	参宮団第374班 至11日	20日	参宮団第375班 至11日	19日	参宮団第376班 至11日	18日	参宮団第377班 至11日	17日	参宮団第378班 至11日	16日	参宮団第379班 至11日	15日	参宮団第380班 至11日	14日	参宮団第381班 至11日	13日	参宮団第382班 至11日	12日	参宮団第383班 至11日	11日	参宮団第384班 至11日	10日	参宮団第385班 至11日	9日	参宮団第386班 至11日	8日	参宮団第387班 至11日	7日	参宮団第388班 至11日	6日	参宮団第389班 至11日	5日	参宮団第390班 至11日	4日	参宮団第391班 至11日	3日	参宮団第392班 至11日	2日	参宮団第393班 至11日	1日	参宮団第394班 至11日	31日	参宮団第395班 至11日	30日	参宮団第396班 至11日	29日	参宮団第397班 至11日	28日	参宮団第398班 至11日	27日	参宮団第399班 至11日	26日	参宮団第400班 至11日	25日	参宮団第401班 至11日	24日	参宮団第402班 至11日	23日	参宮団第403班 至11日	22日	参宮団第404班 至11日	21日	参宮団第405班 至11日	20日	参宮団第406班 至11日	19日	参宮団第407班 至11日	18日	参宮団第408班 至11日	17日	参宮団第409班 至11日	16日	参宮団第410班 至11日	15日	参宮団第411班 至11日	14日	参宮団第412班 至11日	13日	参宮団第413班 至11日	12日	参宮団第414班 至11日	11日	参宮団第415班 至11日	10日	参宮団第416班 至11日	9日	参宮団第417班 至11日	8日	参宮団第418班 至11日	7日	参宮団第419班 至11日	6日	参宮団第420班 至11日	5日	参宮団第421班 至11日	4日	参宮団第422班 至11日	3日	参宮団第423班 至11日	2日	参宮団第424班 至11日	1日	参宮団第425班 至11日	31日	参宮団第426班 至11日	30日	参宮団第427班 至11日	29日	参宮団第428班 至11日	28日	参宮団第429班 至11日	27日	参宮団第430班 至11日	26日	参宮団第431班 至11日	25日	参宮団第432班 至11日	24日	参宮団第433班 至11日	23日	参宮団第434班 至11日	22日	参宮団第435班 至11日	21日	参宮団第436班 至11日	20日	参宮団第437班 至11日	19日	参宮団第438班 至11日	18日	参宮団第439班 至11日	17日	参宮団第440班 至11日	16日	参宮団第441班 至11日